

アウトリーチ

通信



第24号

2014年9月20日発行
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

七夕コンサート

「子どものためのコンサート・シリーズ」第三十九回「子どものための七夕コンサート」音楽で恋の魔法をかけよう」を七月五日（土）に本学講堂で開催しました（第一部、十一時開演、第二部、十五時開演、来場者数：第一部、四百十六名／第二部、二百十五名、計六百三十一名）。出演は「音楽によるアウトリーチ（実習）」履修生と賛助出演の学生合わせて十名です（ピアノ・今川裕美、上田美幸、中川真帆、三木理花絵、声楽・城井礼衣子、寺脇優子、フルート・岩井香那、岡重梨沙、喜多望有、田中佑奈、パイプ・オルガン・山内愛、打楽器・山田りさ、お話・益田多夏）。

今回の七夕コンサートのテーマは「音楽で恋の魔法をかけよう」です。七夕の物語にちなんで、恋にまつわる音楽を中心に選び、織姫様と彦星様が出会えるように、音楽の力で呼び寄せようという構成で進めました。

開幕は、アルディーティ作曲（ロづけ）。フルート二本、ピアノ、グロッケン、トーン・チャ

イムとソプラノ二名で、好きな人と思う気持ちを華やかに演奏しました。

次は、ピアノ演奏で三曲。

まずは独奏でプロコフィエフ作曲



《ロミオとジュリエット》組曲より第六番。演奏に先立って場面を説明し、情景を思い浮かべながら聴いてもらいました。

続いて二台ピアノの演奏で二曲。エルガー作曲（愛の挨拶）は作曲者が婚約者に捧げた曲で、

美しい旋律を二台のピアノが呼び交すように歌います。

一方、ミヨ一作曲《スカラムーシユ》の第三楽章（ブラジルの女）は、弾けるようなサンバのリズムが楽しい陽気な曲で、ピアノ二スト二人が熱演しました。

以上、三曲のピアノ演奏を振り返って、「同じ楽器でも、曲によって様々な気持ちを表わすことができる」ことを子どもたちに伝えました。

ここで、ロジャース作曲（ドレミのうた）を題材に、会場の子どもたちとアクティビティを行ないました。全員で一度歌った後、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドの音の札を持った出演者が舞台前に登場。音には一



一つ名前がついていることを説明し、音の階段になっていることを確かめました。次に階段をジャンプしながら、「ド・ミ・ミー・ミ・ソ・ソー」を一緒に歌ってから、リズムに移ります。会場を二つに分けて、それぞれが担当するリズムを練習します。

「ソード・ラー・ファー・ミード・レー」のメロディーに乗せて、両方のリズムを同時に叩いた後、音の階段、ジャンプ、リズムと続けて演奏し、皆で一つの音楽を作りました。「私たちの身体も楽器になれる」ことを感じてもらえたようで、客席にたくさん笑顔が見られました。

次は、フルート四本のアンサンブルでライ



ヒヤ作曲《シンフォニコ》ニ長調の第一楽章。演奏の前には、司会者がフルート奏者にインタビューする形で楽器の紹介も行ないました。

今度は、歌を続けて二曲。

プッチー



ニのオペラ《ジャンニ・スキッキ》より《私の大好きなお父さん》を独唱で、ロイド・ウエバー作曲《ピエ・イエズ》をソプラノのデュオで演奏し、二人が奏でるハーモニーに耳を傾けてもらいました。

モーツァルト作曲《きらきら星変奏曲》より、テーマと三つの変奏をピアノで演奏。色々な形に変わっていくメロディーに注意して聴いてもらいました。

その上で、フランス民謡《きらきら星》を会場と一緒に歌ったところ、元気な歌声が天に届いたのか、織姫様と彦星様が会場に到着して、舞台左上方の壁に二人の姿が映し出されました。ここでお祝いの曲としてメンデルスゾーンの《結婚行進曲》をフルート四本、パイプ・オルガン、シンバルの編成（松尾璃奈編曲）で演奏。会場後方からの大きな音に子どもたちは驚いた様子でしたが、後ろを振り返って見上げ

ながら真剣に聴いてくれました。

最後は、

下総皖一作曲《たな

ばたさま》を全員で歌いました。

口を大きく開けて歌っている子どもたちを見て、終演するのが



名残惜しい気持ちになりました。終演後には、ピアノ、パイプ・オルガン、フルート、トーン・チャイム、ウインド・チャイムの楽器体験コーナーを設け、たくさん子どもたちが参加してくれました。

この七夕コンサートが、私たちのアウトリーチ活動の初舞台でした。企画の準備段階で何度も壁にぶち当たりましたが、何もかも初めての私たちを、津上智実先生をはじめ、アウトリーチ要員の東瑛子さん、アウトリーチセンターのスタッフの皆さんと学生スタッフたちが支えてくれたお蔭で、笑顔で成功を収めることができました。そして客席から暖かい拍手を送って下さった観客の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

（城井礼衣子・記）

学外アウトリーチ

国立病院機構 刀根山病院

(二〇三年度生)

三月六日(木) 十四時から、

国立病院機構 刀根山病院(豊中市刀根山五丁目一一) B棟二階ホールにて「春のそよ風コンサート」(六十分)を行いました

(ソプラノ・山田絵梨香、ハーブ・田中茜、ホルン・増田明日香、フルート・廣瀬紀衣、山川美和、ピアノ・山本里紗、中川真帆、ピアノ&編曲・松尾璃奈)。

プログラム構成に当たっては、患者さんたちが季節を感じられること、「この曲知ってる!」という喜びを感じたり懐かしんだりできること、そして学生である私たちが「今」できることの三点を軸に、舞台の飾りや手作りの楽器も準備して臨みました。

初めにアーレン作曲《虹の彼方に》(声楽、ピアノ、フルート、ホルン、ハーブ)とヨハン・シュトラウス二世作曲《春の声》(フルート二重奏)、そしてアッセルマン作曲《五月の歌》(ハーブ独奏)の三曲を演奏しました。

次に、エルガー作曲《愛の挨拶》(フルート二重奏)にのせて簡単な体操をして頂きました。

続いて、会場の皆様と一緒に服部良一作曲



《青い山脈》と万城目正作曲《リングの唄》を演奏しました。《リングの唄》では、手作りの楽器(プラスチック容器に小豆を入れたもの)を配り、一番は合唱、二番は手作り楽器での合奏、三番は合唱と合奏を合わせるという形にしました。うまくいくか

どうか心配でしたが、会場の皆さんの楽しそうな雰囲気を見て安心しました。

その後、

マスカーニ作曲《アヴェ・マリア》(声楽、フルート、ハーブ)とベルトウ



ロ作曲《蛍の光変奏曲》(ホルン、ピアノ)、松尾璃奈編曲《春メドレー》(声楽、ピアノ、フルート、ホルン、ハーブ)を聞いて頂きました。《春メドレー》では、《どこかで春が》や《花の街》などを一緒に口ずさんで下さるお客様の姿がありました。

最後に、中村八大作曲《上を向いて歩こう》と見岳章作曲《川の流れるように》、文部省唱歌《ふるさと》を会場の皆様と一緒に歌いました。

アンコールでは、事前研修時に「みなさんが大好きな曲」と伺った大友良英作曲《あまちゃんオーブニング・テーマ》を演奏しました。お客様には手作り楽器を鳴らして頂いて、大いに盛り上がりました。さらにお客様からのリクエストで《春の声》と《上を向いて歩こう》を再度演奏して幕を閉じました。

一年の実習の締めくくりともいえる今回のコンサート。タミナル・ケアの現場において「今」を生きる一人ひとりの大切な時間の中で、私たちが「今」できる「最大限の音楽」の時間を一緒に過ごして頂けたことに感謝しています。



(山田絵梨香・記)

特定非営利活動法人 もみの木

(二〇三年度生)

三月十三日(木) 十四時半から特定非営利活動法人もみの木(兵庫県神戸市鹿の子台北町一丁目二十番七号)にて「スプリング・コンサート」(四十五分)を行いました。

対象は筋ジストロフィー患者の蔭山武史さんとそのご家族と友人二名の計六名です。山田絵梨香(ソプラノ)、廣瀬紀衣(フルート)、松尾璃奈(ピアノ・編曲)の三名で演奏しました。

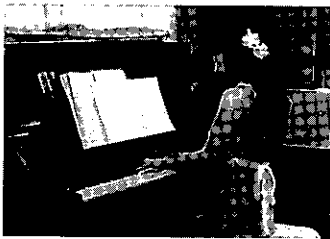
今までの実習は多人数を対象とするものでした
が、今回は
少人数で
音楽の届
け先がは
っきりし
ていたの



で、事前にリクエスト曲を伺った上で、皆さんに安らいでもらえるコンサートをめざしました。

まず、アーレン作曲(虹の彼方に)をソプラノ、フルート、ピアノの編成(松尾璃奈編曲)で演奏し、私たちの音楽を通していろんな世界をのぞいてもらえたらという思いを伝えました。

次に、それぞれソロの魅力を感じてもらえるよう、シヨパン作曲(ノクターン)変ホ長調、作品九―二をピアノ独奏した後、ソプラノ独唱でテイリンデンリ作曲(おお、春よ)、フルート独奏でエルガー作曲(愛の挨拶)をピアノ伴奏で演奏しました。お話も、目の前のお客様に話しかけるような言葉を選んで準備していきまし



た。

ここでリクエスト曲の一つ、ホルスト作曲・坂本昌之編曲の(ジュピタ

ー)を三人で演奏しました。

続いて、フルートとピアノでプーランク作曲(フルート・ソナタ)より第三楽章、ピアノ独奏でドビュッシー作曲(前奏曲集第一巻)より(亜麻色の髪の乙女)を演奏して、ソロ楽器のまた違った面を紹介しました。



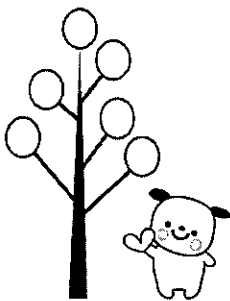
再び三人のアンサンブルでマスカ―ニ作曲(アヴェ・マリア)を演奏し、三つの楽器の

重なる響きに耳を傾けて頂きました。

最後に、蔭山さん自身が昨年作詞された(ソラノカナタ)(中越雄大作曲)をソプラノ、フルート、ピアノの編成にアレンジして演奏しました(松尾璃奈編曲)。プログラムには印刷せずに伏せておいたので、この曲を演奏しますと言った時には驚かれた様子で、とても喜んで下さいました。

終演後のお話で、お母様から「明日からもがんばります」というお言葉を頂き、私たちも「がんばろう」という気持ちになりました。

(廣瀬紀衣・記)



卒業生の活動

私のアウトリーチと

「ほのぼのコンサート」

アウトリーチ二期生

田中奈津紀

■ アウトリーチとの出会い

私は「音楽によるアウトリーチ」の二期生として、三年次後期の講義と、四年次の実習とを履修しました。

きつと音楽学部の方々がそうであるように、私は幼い頃から音楽が好きで、ピアノに触れ、それを自分の専門として学ぶことに何の迷いもなく大学まで進みました。三回生になった頃から卒業後の進路や将来を考え出し、「私はなぜ音楽を学んでいるのだろう、音楽を通じて私は何が出来るだろう」という問いに向き合うようになりました。

そんな時に、アウトリーチとの出会いがありました。「アウトリーチ」とは「手を伸ばすこと」「より遠くに達すること」と聞いて、その言葉が当時の私の心にすつと染み込み、「私は音楽を通じて何がしたいのか」という問いに答えを出せるような気がして、履修を決めました。

アウトリーチの一年半の学びを振り返ってみると、同じ思いを持ったかけがえのない仲間を得ることができましたし、音楽を通じて他者とコミュニケーションする楽しさ、演奏者・聴衆という枠を超えて様々な思いを共有できた時の感動など、数え切れないほどのすばらしい瞬間を経験しました。実際の方法として、聴き手の関心に沿ったプログラム構成の考え方や伝え方、演奏スタイル、コンサート・マネジメントなど、「音楽をどう魅せるか」という視点で多くを学びました。それは、自分自身の音楽との向き合い方を方向づけた一年半でもありました。

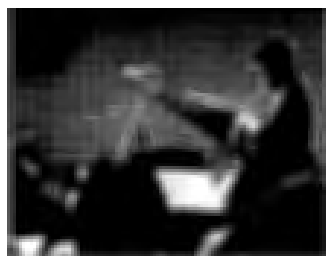
■ 卒業後と

「ほのぼのコンサート」

大学卒業以来の約十一年間、私は教育・研究機関で秘書業務や教育広報などの仕事をしながら、主に医療機関で患者さん向けのコンサートを行ってきました。活動の中心を医療機関としているのは、私自身が大学卒業直前に病を得た時に音楽が大きな力になってくれたという経験があり、自分を助けてくれた医療現場に恩返しをしたいという想いがあった、それが原動力になっています。

これまでの活動の中から、今回は芦屋市立芦屋病院の「ほのぼのコンサート」を紹介します。

これは毎月開催の患者さん向けコンサートで、私は二〇一二年の開始時か

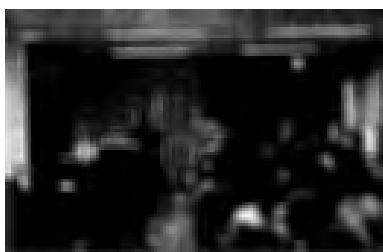


ら主要メンバーとして参加し、この八月には二十六回目を迎えました。

「ほのぼのコンサート」は「芦屋コンフォート・バンド（ACB）」が企画・演奏を行っている。その名の通り「comfort」安らぎ」をモットーとして市立芦屋病院の職員有志で結成されたバンドで、

足りない楽器については、ピアノの私のように、病院外から数名が参加しています。バンドリーダーのサキソフオンをはじめ、ベース、ギター、カホン、クラリネット、フルートなど、多彩な面々で構成されています。

患者さんの好みや距離感を計るといった試行錯誤の末、ここ一年でこのコンサートの基本が出来上がりました。毎月第一木



曜日の十七時から約三十分間の演奏で、曲数は五曲（とアンコール）とし、季節感を出すこと、曲のジャンルが偏らないこと、

メインの楽器が偏らないこと（どの楽器も主役となる箇所を作る）、一曲は患者さんが口ずさめる歌にすること、をポイントにプログラムを構成します。

曲は、クラシックから、日本歌曲、歌謡曲、Jポップ、洋楽、映画音楽、

ジャズ、アニメの主題歌まで、ジャンルを問わず様々な曲を準備します。患者さんからのリクエストがあれば、



できる限りそれに応えます。

一見、シンプルですが、月に一度のペースですから、それなりに大変です。毎回コンサート終了時に、今回の反省と次回の曲目案を出し合い、楽譜を準備

して、リハーサル（約二時間）を二回行い、本番を迎えるというサイクルで、あつという間に一ヶ月が経ちます。

コンサート活動を同じ場所で継続するには、上記のような運営サイクルのデザイン、メンバーの相互理解、環境、周囲の理解など、様々な要素がバランスよく整っていることが必要です。継続するからこそ、演奏グループとしての個性が生まれ、音楽的成長ができ、演奏者と聴き手の結びつきを強めることができます。継続することの大切さと、それも病院全体の理解とサポートがあつてこそという有難さを実感しています。

■聴き手（患者さん）が主役

このコンサートでは患者さんが演奏で参加することもあり、その姿に他の患者さんも勇気づけられるようです。ご本人も、入院当初には、まさか病院で演奏する機会があるなんて想像も

していなかったでしょう。

コンサートで患者さんの様子を見てみると、若かった頃の思い出に浸る



人、今の流

行歌に触れ

て新たな楽

しみを見つ

ける人、病

院スタッフ

の普段とは

別の一面をみてファンになる人

など、わずか三十分の間に、ドラマティックな瞬間が数々あります。退院した方が聴きに

来ることもあり、そんな時には職員

も一緒になつて、まるで同窓会

のような雰囲気になります。患者さん

とご家族が静かに手を取り合つて聴

いている姿を見ると、言葉では表せないお互いの思

いを、音楽を通じて共有されている

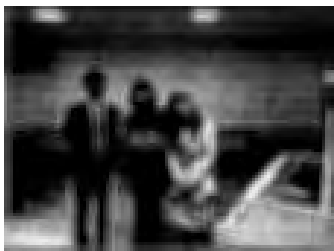
のかなと感じたりします。

このように「ほのぼのコンサート」は音楽を通じて、患者・職員といった立場の垣根を越えたコミュニケーションの場を生

み出すと共に、聴き手（患者さん）が主役になれる瞬間を創りだしているような気がします。

■病院での活動を通じて

これまでの活動で学んだことは、音楽は聴き手があつてこそということ。そのためには演奏者は、「手を伸ばすこと」というアウトリーチの本来の意味の通り、まずは自ら動き、相手（聴き手）を十分に理解することが必要であり、その上で奏でられる音楽は、お互いに大きな力をもたらしそうです。これは神戸女学院の学院標語「愛神愛隣」の実践そのものではないかと思えます。



これからも、その理念を心に、仲間たちと共に地道に活動を続けていきたいと思っています。

今後の催し

第五回 音で遊ぼう！

子どものための

音楽作りワークショップ

今年も「音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を九月二十七日（土）九時半から十六時まで本学音楽館ホールで開催します。

これは英国ギルドホール音楽院で長年、培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れた精神とプログラムに学ぶ形で、二〇〇七年から〇八年、一二年、一三年と実施してきたもので、今回が五回目です。六月に同校リーダーシップ修士課程を修了したばかりの若い音楽家（ポルトガル出身のジョアナ・アロージョとテレザ・カンポスの二名）を日本に招聘し、九月二十

四日から四日間、学生対象の「音楽作りワークショップ特別研修」を行い、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちの参加を得て実施します。

誰もが秘めている音楽的なアイデアを楽しく引き出し、お互いをよく聞いて、それらを組み合わせる行く作業は、音楽のもつ根源的な力と可能性を改めて認識させてくれます。関心のある人はぜひ参加して下さい。

子どものための

スペシャルコンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート」トロンボーンの魅力（「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十回）を十月十三日（土）、神戸女学院講堂で開催します（十一時と十五時の二回公演）。

出演は、「ベル・カント・トロンボーン」（歌うトロンボーン五人組）の鶴房采花、藤井美波、吉田梨絵、小南友里加（トロンボーン）と田村佳子（バス・トロンボーン）に、卒業生の松尾璃奈（ピアノ）と祐成麻奈未（お話）の諸氏です。

バロックから現代までの曲を演奏しながら、トロンボーンの魅力についてお話しします。終演後には、ピーボーンの体験コーナーも設けます。本シリーズ初の金管楽器のプログラムに、どうぞ御期待下さい。

子どものための

クリスマスコンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」オルガンと歌で綴るクリスマスの物語（「子どものためのコンサート・シリーズ」

ズ」第四十一回）を十二月十三日（土）十一時から神戸女学院講堂で開催します（一回公演、対象は三歳以上）。

出演は日本を代表するオルガニストの松居直美（本学音楽学部講師）、卒業生のソプラノ鬼一薫、ヴァイオリニスト菊本恭子と小林真奈美の諸氏、そして音楽学部の学生たちです。

パイプ・オルガンについてのミニ講座に続いて、イエスの降誕の物語を、バロックの宗教曲を中心に、オルガン独奏とソプラノやヴァイオリン二重奏とのアンサンブルで綴ります。大鹿智子の描くオリジナルのイラストと共に、きつと心洗われる素敵なコンサートになることでしょう。終演後のオルガン体験コーナーもどうぞお楽しみに。

（アウトリーチ・センター長

津上智実）

♪ 今後の予定 ♪

◎アウトリーチ

2014年10月8日(水) 大阪市立総合医療センター
 2014年10月31日(金) 国立病院機構兵庫中央病院
 2014年11月11日(火) 西宮市立春風幼稚園
 2014年11月20日(木) 神戸市立医療センター中央市民病院
 2014年11月29日(土) 野木病院
 2014年12月 雲雀丘学園小学校(日程調整中)
 2015年3月 国立病院機構刀根山病院(日程調整中)

◎ワークショップ

「第5回 音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ」

日時: 2014年9月27日(土) 9:30~16:00

場所: 神戸女学院大学 音楽館ホール

講師: 英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者

対象: 小学生・中学生・高校生 先着40名

参加費: 無料

応募方法: アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第40回 子どものためのスペシャル・コンサート ~トロンボーンの魅力~」

日時: 2014年10月11日(土)

第1部 11:00開演(年齢制限なし、未就学児対象)

第2部 15:00開演(小学生以上対象 ※未就学のお子様は入場できません)

会場: 神戸女学院講堂

出演: ベル・カント・トロンボーン Bell Canto Trombone

鶴房采花 藤井美波 吉田梨絵 小南友里加(トロンボーン)

田村佳子(バス・トロンボーン) 松尾璃奈(ピアノ) 祐成麻奈未(司会)

入場料: 大人500円、子ども(19歳以下)300円

応募方法: アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

「第41回 子どものためのクリスマス・コンサート ~オルガンと歌で綴るクリスマスの物語~」

日時: 2014年12月13日(土) 11:00開演(3歳児以上対象)

会場: 神戸女学院講堂

出演: 松居直美(パイプ・オルガン)

菊本恭子、小林真奈美(ヴァイオリン)、鬼一薫(声楽)、本学音楽学部生

入場料: 大人1000円、子ども(3歳~19歳)500円

応募方法: アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします!!

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
 大学やホールといった従来の枠にとらわれずに社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ: 総合的学習支援プログラムとして、♪ 病院や美術館へ: 催しの趣旨に沿った手作りの音楽プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせ…神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月~金 10:00~15:00)
 〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
 E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

今年は新しいスタッフと共に、新体制で学生をサポートしています!(寺澤)
 部屋を模様替えし、新スタッフを迎え、私自身も新しい気持ちで働いています。(藤野)
 4月から勤務しています♪ 一日でも早く仕事を覚えて精進して参ります!(森)
 はじめまして。素敵なコンサートに携わる仕事ができ感謝しています!(中川)
 今年の履修生はよく考えて行動する学生たちなので、後期も楽しみです。(津上)